

Listen and Speak! らくらく英検2級 II

～ 英語ができる人になる ～

第7回 How to rescue dogs and cats

日本語訳

* はじめに *

ようこそ “Listen and Speak! らくらく英検2級 セカンドシリーズ”へ。

この番組は英検でおなじみの、日本英語検定協会がお送りする、全ての『英語ができる人』になりたい人たちのための番組です。これから英検2級や準2級を目指す人はもちろん、さらにその上を目指して、本当に『英語ができる人』になりたいというあなたにとって必ず役に立ちますよ。後半はちょっと難しかったり、大変だったりするかもしれませんが、私、伊藤太と頼れるパートナーの Gary Scott Fine がしっかり『英語ができる人』になりたいあなたをサポートします。

この番組はあなたが英検の試験で合格するのに役立つだけではなく、あなたの英語力、とくに聞く力と話す力を高めるのに役立つことでしょう。しかし、この番組の本当の目的は英語そのもの以上のものを学びとるお手伝いをすることです。

私たちはあなたが英語をできるかどうかだけではなく、あなたが英語を使って何ができるかに興味もっています。

Program Number 7 “How to rescue dogs and cats”

さて、今回のタイトル “How to rescue dogs and cats” は「イヌとネコを救うにはどうするか」というような意味です。今回は特に取り上げる文法事項はありませんが、動物やペットを題材にして英語のトレーニングをしてみたいと思います。それから、番組後半の **Challenge** では、タイトルの “How to rescue dogs and cats” について、深く考えながら、本格的な英語力を養うための基礎作りにチャレンジしていきましょう。それでは、この後のヒントになるかもしれないので、まずはゲーリーと私の会話を聞いてください。

■Introduction (導入の対話)

- G: やあ、フトシ。とてもうれしそうだね。何かあったの？
- F: 新しいカメラを買ってさ、うちのネコの写真をたくさん撮ったんだよ。見たい？
- G: ああ、ちょっと見せてよ。
- F: かわいいだろ？
- G: う～ん、そうだね。でも、写真は全部ネコの足ばかりだよ！ どうして体全体とか顔とか撮らないだい？
- F: あのさ、ネコの一番かわいいところは肉球だろ。ぼくはね、肉球をなでるのが大好きなんだよ。そうさ、この番組のタイトルを「らくらく英検肉球」にするのはどうかな？
- G: はは、また冗談を言ってるよ…だといいいけど。ところで、君んちのネコはどうやって手に入れたの？ ペットショップで買ったのかい？
- F: いや、ペットショップじゃないよ。動物病院から引き取ってきたんだ。道路を運転していたらたまたま「里親募集」の看板が見えたんだよ。それで車を止めて、動物病院に入って、うちのネコを見つけて…
- G: それで肉球をチェックしたってわけだね？
- F: そう、それだよ！
- G: はは、オーケー、フトシ。肉球と今月の番組テーマの関係を探ってみよう。じゃあ、おしゃべりはこのくらいにして、今日のエクササイズを始めようか。
- F: よし、そうしよう。
- G: それでは…
- G/F: 始めよう！

1 Exercise 1 dialogue

これから流れる男女の対話を聞いて、後の問いに答えてください。これから流れる対話は過去の英検に出題されたリスニング問題の一つです。実際の問題は、対話を聞いてから適当な選択肢を選ぶ形式ですが、ここではちょっと頑張って、ゲーリーの質問に自分の言葉を使って英語で答えてみるようにしてください。いいですか、もう一度言いますよ。対話を聞いた後、ゲーリーの質問に自分の言葉で答えてくださいね。二次試験の面接対策にもなりますし、とても役に立ちますよ。それでは、始めます。

対話を聞いて次の質問に答えなさい。【2014年度 第2回 2級 No.8】

男性：アンジー、イヌを散歩に連れて行ってくれないかな？ 今朝はまだ外に出ていないようなんだよ。

女性：そうじゃないの、お父さん。朝食の前に私がバターボールに散歩させたの。

男性：じゃあ、どうしてドアの前で座ってるのかな。

女性：私がもうすぐバイオリンのレッスンに行かなきゃいけないのが分かってるのよ。最近、私にいつてらっしゃって言うためにそこで待ってるの。

次の問いに自分の言葉で答えなさい。

質問：なぜ、バターボールはドアのそばで座っているのですか。

それでは、語彙と会話の表現について確認をしましょう。

■語彙と表現を学ぼう

私の日本語を聞いて、ゲーリーに続いて英語で発音してください。

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. ～を歩かせる、散歩させる | walk ～ |
| 2. どうして～なのだろうかと思う | wonder why ～ |
| 3. バイオリン | violin |
| 4. 最近 | recently |

それでは、少し答え方についてヒントを出しましょう。Question は“Why is Butterball sitting by the door?”です。Butterballはイヌの名前ですから、なぜそのイヌはドアのそばに座っているのか、ということになりますね。答えはAngieの最後の発言を聞けばすぐに分かりますが、答え方は固有名詞と代名詞の使い方に注意して、内容が正確に伝わるようにしてください。それでは、この点に注意してもう一度聞いてみましょう。

対話を聞いて次の質問に答えなさい。【2014年度 第2回 2級 No.8】

男性：アンジー、イヌを散歩に連れて行ってくれないかな？ 今朝はまだ外に出ていないようなんだよ。

女性：そうじゃないの、お父さん。朝食の前に私がバターボールに散歩させたの。

男性：じゃあ、どうしてドアの前で座ってるのかな。

女性：私がもうすぐバイオリンのレッスンに行かなきゃいけないのが分かってるのよ。最近、私にいつてらっしゃって言うためにそこで待ってるの。

次の問いに自分の言葉で答えなさい。

質問：なぜ、バターボールはドアのそばで座っているのですか。

■模範解答

模範解答を聞いて、大事な点を考え、自分の答えと比較してください。

質問：なぜ、バターボールはドアのそばで座っているのですか。

Because he knows that Angie has to go to her violin lesson soon, and he is waiting there to say good-bye to her.

彼はアンジーがもうすぐバイオリンのレッスンに行かなくてはならないのを知っていて、彼女にいつてらっしゃいと言うためにそこで待っているから。

では少し確認しましょう。答えの内容自体はさほど難しくありませんが、放送の音声そのままではなく、きちんと代名詞を変えないといけませんね。慣れないうちはこのように正確に代名詞を使うことを難しく感じるかもしれませんが、「言いたいこと」に意識を集中すれば、自然にできるようになっていきます。「誰のことなのか」を意識しながら、モデルアンサーの真似を試してみるのも効果的ですよ。

2 Exercise 2 passage (文章)

このエクササイズでは、短い文章が読まれた後にゲーリーが一つ質問をしますので、自分が思ったことを自由に答えてください。主語と正しい答え方に注意して、聞かれたことに対してまっすぐ答えてくださいね。

英文を聞いて次の質問に答えなさい。【2014年度 第1回 2級 No.25】

ホッキョクグマは北極に住んでいる白クマのことです。彼らはまだとても大きいのですが、科学者らによれば以前はもっと大きかったとのこと。科学者らは現在のホッキョクグマの骨と50年から100年前のホッキョクグマの骨とを比較しました。彼らはホッキョクグマがほぼ10%小さくなったことを発見しました。可能性のある理由の一つはホッキョクグマにとって食糧を見つけるのが難しくなっていることです。

次の問いに自分の言葉で答えてください。

質問：ホッキョクグマにとって食糧を得るのが難しくなっているのが事実だとすれば、その理由は何でそれはなぜだと考えますか。

さあ、きちんと聞き取れましたか。それでは、少し語彙と英文の表現を確認しましょう。

■語彙と表現を学ぼう

私の日本語を聞いて、ゲーリーに続いて英語で発音してください。

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. ホッキョクグマ | polar bear |
| 2. A と B を比較する | compare A with B |
| 3. 骨 | bone |

質問は「ホッキョクグマにとって食糧を得るのが難しくなっているのが事実だとすれば、その理由は何でそれはなぜだと考えますか。」という意味ですね。これは自分で理由を考えなければなりません。あまり深く考えずに単純に環境変化に言及するのがいいかもしれません。ただし、断言できる材料があまりない場合には助動詞を使うなどして「断言を避ける方法」“Avoidance of Extreme Styles”を用いるとさらに主張の妥当性が向上します。それではこのことも意識して、もう一度聞いて質問に答えてください。

英文を聞いて次の質問に答えなさい。【2014年度 第1回 2級 No.25】

ホッキョクグマは北極に住んでいる白クマのことです。彼らはまだとても大きいのですが、科学者らによれば以前はもっと大きかったとのこと。科学者らは現在のホッキョクグマの骨と50年から100年前のホッキョクグマの骨とを比較しました。彼らはホッキョクグマがほぼ10%小さくなったことを発見しました。可能性のある理由の一つはホッキョクグマにとって食糧を見つけるのが難しくなっていることです。

次の問いに自分の言葉で答えてください。

質問：ホッキョクグマにとって食糧を得るのが難しくなっているのが事実だとすれば、その理由は何でそれはなぜだと考えますか。

■模範解答

模範解答を聞いて、自分の答えと比べてください。

質問：ホッキョクグマにとって食糧を得るのが難しくなっているのが事実だとすれば、その理由は何でそれはなぜだと考えますか。

I think the main reason is global warming, because it could have a huge effect on the Arctic ecosystem by melting ice. This could change the behavior and availability of fish and animals that the polar bears feed on.

私は主な理由は地球温暖化だと思います。なぜなら、地球温暖化は氷を溶かすことによって北極圏の生態系に非常に大きな影響を与えている可能性があるからです。このことはホッキョクグマが主食とする魚や動物の行動と捕まえやすさを変化させているかもしれません。

さあ、どうでしたか。助動詞を使って断言を避けると「突っ込む隙」が少なくなります。こうした“Avoidance of Extreme Styles”も『英語ができる人』になるのにとっても役に立ちますから、ぜひ、モデルアンサーを参考にしてくださいね。

■英文を使った反復練習

さあ、ここからは、放送された英文について **Repetition Drill** を行います。repetition は反復でしたね。ポーズの間にゲーリーの英語をできるだけそっくりに真似してみましょ。単語の発音だけでなく、イントネーションや雰囲気も真似してくださいね。

1) 反復練習

それぞれにポーズの間に反復してください。何度も繰り返して練習してくださいね。そうすれば、きつともっと上手くできるようになりますよ。準備はいいですか。それでは、始めます。

Polar bears are white bears /
that live in the arctic. //
Although they are still very large, /
scientists say that they used to be bigger. //
Scientists compared the bones of modern polar bears /
with those of polar bears that lived 50 to 100 years ago. //
They found /
that polar bears today are almost 10 percent smaller. //
One possible reason is that /
it is becoming harder for them to find food. //

どうでしたか。上手に真似ができると楽しいですね。さあ、次は『英語ができる人』は必ずといっていいほど練習するシャドウイングにいきます。私が実際、少しシャドウイングのお手本を示しますね。ゲーリーの後に続いてシャドウイング、つまり、ゲーリーの言葉の影を追うような形で、聞きながらゲーリーの言葉を真似していきます。

2) シャドーイング練習 1

聞きながら、それぞれのパートごとにシャドーイングしてください。

(G → F)

Polar bears are white bears /
that live in the arctic. //
Although they are still very large, /
scientists say that they used to be bigger. //
Scientists compared the bones of modern polar bears /
with those of polar bears that lived 50 to 100 years ago. //

They found /
that polar bears today are almost 10 percent smaller. //
One possible reason is that /
it is becoming harder for them to find food. //

要領はつかめましたね。次は実際に自分で shadowing にチャレンジしてください。shadowing は自分で speaking をするという負荷をかけながら listening をするので、筋トレと同じように「耳トレ」になります。必ず listening の能力が向上しますので、できるまで何度も繰り返してください。聞く音声の方を大きくして、自分の声はあまり聞こえないようにすると一層効果が上がりますよ。

2) シャドーイング練習 1

聞きながら、それぞれのパートごとにシャドーイングしてください。
準備はいいですか。それでは、始めます。

Polar bears are white bears /
that live in the arctic. //
Although they are still very large, /
scientists say that they used to be bigger. //
Scientists compared the bones of modern polar bears /
with those of polar bears that lived 50 to 100 years ago. //
They found /
that polar bears today are almost 10 percent smaller. //
One possible reason is that /
it is becoming harder for them to find food. //

どうですか。できるようになるとすごく楽しいし、やりがいがあるでしょう。次はセンテンスの途中に区切りはありませんよ。各センテンスの間も短いですから、一気にパッセージ全体をシャドウイングできるように頑張ってくださいね。できたらとても達成感が得られますよ。

3) シャドーイング練習 2

センテンスの全体を最初から最後までシャドーイングしてください。何度も練習してくださいね。きっと達成感が味わえるはずです。準備はいいですか。それでは始めます。

Polar bears are white bears that live in the arctic. //
Although they are still very large, scientists say that they used to be bigger. //
Scientists compared the bones of modern polar bears with those of polar bears that lived 50 to 100 years ago. //

They found that polar bears today are almost 10 percent smaller. //

One possible reason is that it is becoming harder for them to find food. //

3 Challenge passage & opinion (文と意見)

さて、いよいよ最後のエクササイズ、チャレンジのコーナーです。ここからは一気に英語だけで進めていきますから、しっかり集中してくださいね。

次の英文を聞いて、ゲーリーの質問に答えてください。【2013年 第2回 2級 No. 18】

メリッサは動物園で働いており、ときどき地元の学校で自然について話をします。彼女は子供たちに人々が怖がるかもしれない、トカゲ、コウモリ、大型のクモなどの動物を見せています。彼女はまた、子どもたちにそうした怖そうに見える動物について興味深い事実を伝え、それらに触るよう促すようにもしています。彼女は子供たちがこうした動物について学び、恐れなくなればよいと望んでいます。

さて、これからゲーリーがこの文について幾つか重要な点を挙げ、そして質問をします。その質問に答えてください。できるだけ上手く自分の意見を表現できるようにしてください。

この文によれば、動物園で働く女性メリッサはときどき地元の学校で子供たちに対して怖そうに見える動物を見せ、そうした動物について興味深い話をしており、子どもたちがこうした動物を怖がらないようになることを望んでいるとのこと。

そうした子供たちのように、私たちのほとんどがかわいらしい外見の動物の方を、コウモリや大型のクモのような怖そうに見える動物よりも好んでいます。もちろん、そうした怖そうな外見をした動物についてもっと知り、そうした動物への偏見を乗り越えることは重要です。しかし、私はイヌやネコのような私たちのほとんどが好む動物についての重要な事実を皆さんに考えてもらいたいと思います。

ある政府調査によれば、2013年に日本の保健所全体で約13万頭の動物が、大半はイヌとネコですが、殺処分されました。その年、見捨てられ保健所に連れて行かれた動物の総数は17万6千頭以上でした。保健所に連れて行かれた動物のおおよそ75%はガス室で殺されていますが、その一方で元の飼い主に引き取られたのはわずか8%、新しい飼い主に引き取られたのは17%でした。過去20年間にガス室で殺されるイヌとネコの数は劇的に減少したのですが、もっと多くの命を救うために努力がなされなければなりません。

それでは、皆さんに質問をしたいと思います。保健所で殺処分されるイヌとネコの数を減らすには何が必要だと思いますか。複数の具体策に触れながら自分の答えを説明してください。

■模範解答

さあ、フトシの言うことに耳を傾けてみましょう。彼が模範解答を提示します。よく聞いて自分の答えと比べてください。

私は保健所で殺処分されるイヌとネコの数を減らすには大別して二つの方法があると考えます。一つはイヌとネコの里親による引き取りを増やすこと、もう一つはこうした動物が市場に出回る総数を制限することです。

私たちは一人ひとりがこの問題に注意を払うべきですし、より多くの人々がこのことを意識するようにすることも大切かもしれません。しかし、社会政策としては、政府や地方自治体がそうしたペット動物の里親による引き取りを促進している団体やNPO（非営利団体）に対して財政的支援をするのがより現実的です。もし、政府が規制を緩和し税金の控除することによってそうした団体の設立と活動をもっとやりやすくすれば、それも役立つかもしれません。そうした団体の数が多ければ多いほど、そしてそれらが活動しやすければしやすいほど、より多くの里親による引き取りが実現し、「保健所」と呼ばれる場所で殺処分されるイヌとネコの数は一層減少するでしょう。

これに加えて、私は「総量規制」の概念が適用できると思います。現在、小さなショーケースの中に入れてあまりにも多くの子イヌと子ネコを販売しているペットショップがちまたにあふれています。私はそうしたイヌやネコをとてもかわいそうに感じ、なぜ子イヌと子ネコしか売られていないのか、なぜ成犬や成猫は売られないのか、そして、売れ残ったペットはどこに行くのかと思うのです。もし、政府や地方自治体が市場における生まれたばかりのイヌとネコの総数を制限すれば、イヌとネコの数は全体として次第にしかし確実に減っていきます。遅かれ早かれ、こうして総数が減少すれば、それは捨てられるイヌとネコの数を減らすことにつながるでしょう。なぜなら、動物に対する需要と市場における供給とが次第に適合することになるからです。

結論として、人々の意識を喚起する努力を行うことは大切ではあるものの、しかし、ペットの里親引き取りに大きな役割をはやす動物愛護団体に財政的支援を行うことや、そうした団体の設立を促すことも重要です。私たちは、単なる観察者としてだけでなく、こうしたペット動物にとって好ましくない状況を変えることができる責任ある市民として、動物取引の実態により注意を払うべきなのです。

どうでしたか。フトシの言ったことは聞き取れましたか。彼の主張の要点は分かりましたか。オーケー、それでは、彼がたった今言ったことを説明しますから、よく聞いてください。

はい、ゲーリーはまず、動物園で働く女性が地域の学校で自然について語る際に、トカゲやコウモリなど一見すると怖そうに見える動物の真の姿を説明することで、子どもたちがそうした動物を敬遠せずすむようにしたいと思っている、という本文の内容を要約してくれました。

そして、そうした怖そうに見える動物への理解を深め、偏見を捨てることも大切だけれども、皆がかわいがっているはずのイヌとネコの悲惨な現実を知ってほしいとした上で、2013年の統計によれば、日本国内の保健所で殺処分されるイヌとネコは年間13万頭にのぼること、保健所

に持ち込まれる 17 万 6 千頭のうち元の飼い主に返されるのはわずか 8%、里親に引き取られるイヌやネコの割合もわずか 17%に過ぎず、75%は殺処分されてしまう、という悲惨な現実を紹介してくれました。

その上で、殺処分されるペットの数を減らすには何が必要か、具体策を“more than one”つまり、複数あげて自分の考えを答えるよう求めました。

これに対して私は、冒頭で解決策は大きく二つに分かれるとして、一つは里親による引き取り数を増やすこと、もう一つは市場におけるペットの取引総数の制限をすること、まずはこの二つを提示しました。

そして、一つ目の解決策について具体的な説明を行い、次に二つ目の解決策を具体的に説明するという展開を取った上で、最後にそれらの具体策を短く再提示する形で結論をまとめたのが分かりましたか。

このように、「主に二つあります。一つは〇〇で、もう一つは〇〇です。」と冒頭で主張の概要を提示して、次にそれぞれの主張を順次具体的に説明していき、最後にこれを繰り返す、という方法もいわゆる「サンドイッチ構造」の一つですが、これもシンプルで強力な方法ですから、皆さんもぜひ参考にしてくださいね。

英検の公式ウェブサイトからスクリプトをダウンロードして、英文を確認してください。前回までのものと比較すると一層効果的です。

さあ、フトシの話をもう一度聞いてみましょう。よく注意して聞き、彼の意見の表現方法に注目してください。

私は保健所で殺処分されるイヌとネコの数を減らすには大別して二つの方法があると考えます。一つはイヌとネコの里親による引き取りを増やすこと、もう一つはこうした動物が市場に出回る総数を制限することです。

私たちは一人ひとりがこの問題に注意を払うべきですし、より多くの人々がこのことを意識するようにすることも大切かもしれません。しかし、社会政策としては、政府や地方自治体がそうしたペット動物の里親による引き取りを促進している団体や NPO (非営利団体) に対して財政的支援をするのがより現実的です。もし、政府が規制を緩和し税金の控除することによってそうした団体の設立と活動をもっとやりやすくすれば、それも役立つかもしれません。そうした団体の数が多ければ多いほど、そしてそれらが活動しやすければしやすいほど、より多くの里親による引き取りが実現し、「保健所」と呼ばれる場所で殺処分されるイヌとネコの数は一層減少するでしょう。

これに加えて、私は「総量規制」の概念が適用できると思います。現在、小さなショーケースの中に入れてあまりにも多くの子イヌと子ネコを販売しているペットショップがちまたにあふれています。私はそうしたイヌやネコをとてかわいそうに感じ、なぜ子イヌと子ネコしか売られていないのか、なぜ成犬や成猫は売られないのか、そして、売れ残ったペットはどこに行くのかと思うのです。もし、政府や地方自治体が市場における生まれたばかりのイヌとネコの総数を制限すれば、イヌとネコの数は全体として次第にしかし確実に減っていきます。遅かれ早かれ、こ

うして総数が減少すれば、それは捨てられるイヌとネコの数を減らすことにつながるでしょう。なぜなら、動物に対する需要と市場における供給とが次第に適合することになるからです。

結論として、人々の意識を喚起する努力を行うことは大切ではあるものの、しかし、ペットの里親引取りに大きな役割をはやす動物愛護団体に財政的支援を行うことや、そうした団体の設立を促すことも重要です。私たちは、単なる観察者としてだけでなく、こうしたペット動物にとって好ましくない状況を変えることができる責任ある市民として、動物取引の実態により注意を払うべきなのです。

<DIAGRAM>

<主張提示：抽象>

Two main ways to decrease the number of dogs and cats put down....

A: to increase the adoption of dogs and cats

B: to control the total number of those live animals in the market

<主張 A の具体説明：具体>

• people's awareness and attention (= important, but...)

1. To give financial support to groups or NPOs that promote adoption

(= more realistic as a social policy)

2. To make it easier to establish such groups or NPOs by easing regulations



***1. fewer financial burdens + 2. more such organizations**

→ **more adoptions + fewer animals put down in "animal shelters"**

<主張 B の具体説明：具体>

• too many young kittens and puppies are sold (= present situation)



3. To control the total number of newborn dogs and cats in the market



*** demands and supplies will gradually meet**

→ **decrease the number of abandoned dogs and cats**

<結論 (=主張の再提示)：縮約>

In conclusion,

1. To give financial support to animal loving organizations

2. To encourage establishment of more such organizations

3. To be responsible to change undesirable aspects of the animal trade

■Closing Dialogue

G: フトシ、今回もまた、うまく組み立てられた構造を使って自分の意見をととても効果的に提示したね。リスナーの皆さんにとって自分の英語で話す力を改善するのにとても役立つと思うよ。ぼくはリスナーの皆さんにスクリプトとダイアグラムをダウンロードするよう強く推薦したい。

F: ありがとう、ゲーリー。それを聞いてとてもうれしいよ。

G: ところで、フトシ、君はどのようにしてネコを引き取ることに決めたのかな？

F: 数年前、たまたまあるテレビ番組を見たら、それがこの国全体で約 20 万頭ものイヌとネコが保健所で殺処分されている事実を伝えていたんだ。ぼくはとても残念な気持ちになって、日本の世帯数について少しネットで調べてみたんだよ。

G: ふーむ、その調査を通じて何が分かったのかな？

F: この国の世帯数は約 5,000 万、仮に 250 世帯中でたったの一世帯が一匹のイヌかネコを引き取れば、単純計算で言うと、20 万頭のイヌとネコの全てが救われるって分かったんだ！ これは難しくはなさそうだって思ったんだよ、なぜなら、全世帯中のたった 0.04% で全ての動物を救うのに十分なんだから。それでぼくは現実的な解決策を見つけたと思ったってわけさ。それで、自分自身がそうした世帯の一つになる、つまりイヌかネコを一匹の里親になることでこの解決策を始めることにしたんだ。

G: ふーむ、興味深い話だね。君はもっと多くの命を救うよい方法を見つけたのかもしれないね。

F: だけど、一つ問題があるんだ。

G: 何だい？

F: 計算が止まらないんだよ…、ぼくは 250 世帯を代表して一匹のネコの里親になっている。という事は、ぼくがネコの肉球の一つを触っているとき、60 以上の世帯を代表していることになるでしょ。荷が重いよ！

G: 一肉球につき 60 世帯以上…肉球 4 つで 250 世帯を代表…フトシ、君 (の指) も責任重大だね。

(*There's a lot riding on your shoulders. 「重大な責任が君の双肩にかかっている」に引っかかたしやれです)

さあ、今回のレッスンはどうでしたか。後半は少し難しかったかもしれませんがね。ぜひ、英検のウェブサイトからスクリプトをダウンロードして復習してください。それから何度も聞き直して、自分でも話せるように練習してみてくださいね。Repetition や Shadowing だけでなく、話す内容の構成を組み立てること、そして相手に伝えること、こうしたトレーニングを続ければ、あなたも必ず『英語ができる人』になります。

ところで今回、セカンドシリーズ第 7 回目のタイトルは “How to rescue dogs and cats” でした。衝撃的で解決が困難な問題についても、何とか解決策を考えていく、そしてそれをしっかりとした「構成の力」で説得力を増すように提示する、こうした訓練は大変かもしれませんが、本当の意味での『英語ができる人』への近道となります。他の様々な問題についても、「構成の力」を意識して、バランスよく考えるようにすれば、あなたも『英語ができる人』になりますよ。

Well, then...

See you next time!

<講師陣プロフィール>

伊藤 太 (Futoshi Ito)

大手予備校・有名進学塾等で英語講師を務め、東大クラス・医学部コース等を担当。作成した教材から東大・筑波大等の入試長文問題を的中。コーチングを取り入れた研修方法を確立し、数多くの講師・教員の授業力・授業アンケート向上に寄与。現在、多数の私立学校にコンサルタント、アドバイザーとして関わるとともに、ネイティブスピーカーを含む学校教員・予備校講師（100名超）のコーチを務める。

ゲイリー・スコット・ファイン (Gary Scott Fine)

オレゴン州ポートランド出身。スタンフォード大学大学院修士課程修了（東アジア研究）、南カリフォルニア大学大学院修士課程修了（映画・テレビ研究）。現在、東海大学外国語教育センター准教授。主な研究テーマはエンターテインメントメディアを通じた第二言語習得。

朝日新聞・土曜版、『ENGLISH JOURNAL』（アルク）、『CNN ENGLISH EXPRESS』（朝日出版社）に映画・ドラマに関わる英語コラムを連載中。NHK 教育テレビ、アルクヒアリングマラソン等多数の番組で出演及びテキスト執筆で活躍。